

紙面から

教育随想

「感動の場」

愛知県立岡崎高等学校校長

金丸 和義氏

羅 針盤

「曲木不捨」

竜南中学校校長 河合 好文

この人に聞く

「拘置所看守二十五年」

元岡崎拘置支所看守部長

土岐 了平氏

特集

「しつとるかん？岡崎」

ふれあい

「赤ちゃんに触れて」

岩津小学校 中野渡妙子

師弟同行

前岡崎小学校校長

石川 昌文

梅園小学校 夏目 恒男

フォト・ヒストリー岡崎の教育
完全給食実施（昭和二十九年）



7月号

平成12年7月1日

発行／編集
岡崎市教育委員会



自分らしく
互いに育ち合う



今月の学校紹介
～梅園幼稚園～

- 教育随想 -



感動の場

愛知県立岡崎高等学校長

金丸 和 義



の在校生にとっても大きな感動の場となったことと思います。

中国に「倉裏満ちて、則ち礼節を知り、衣食足つて、則ち榮辱を知る」ということばがある一方、「社会が成熟し、文明が高度化してくると人間は幼児化してくる」といつている人もいます。

昨今の憂うべき報道をたびたび見聞きするにつれ、経済的に豊かになった今の日本では残念ながら後者に当てはまる人間が増えつつあるように感じます。

幼少年期の経験は心の成長に大きな影響を及ぼします。しかしながら、実生活の中では心の成長を促すような実体験の機会は限られています。そうであるならば、卒業式を始めとする様々な学校行事、名作本読書、名画・音楽等芸術鑑賞、体育・スポーツ活動等の様々な活動の中に感動の場を意図的、計画的に設定し、心を揺さぶる感動をできるだけ多く体験させることによって、子供たちが逞しく心豊かな人間に成長していくことを期待したいものです。

（かねまる かずよし）

故郷九州の、ある僻地校に勤務する兄から一本のビデオテープが届きました。兄の勤務する小学校で行われた卒業生がわずか二人だけの卒業式の様子を撮ったビデオです。卒業生の入場から始まり、式後の謝恩会までの一部始終を撮影した約一時間半にも及ぶテープです。学校行事の度に、その様子をビデオに残してくれる地元住民の一人の方が撮ってくれたものだとのことでした。

最近の一般的な小学校の卒業式の様子は知りませんが、この学校の卒業式には直接関係のない私もビデオを見て深く感動させられました。

卒業生各々に対し、在校生二十一

名一人一人が一言ずつ、思い出、お礼のことばを語っていました。また、二人が過ごした六年間に在職し、今他校へ転勤していった校長、教員、事務職員合わせて九人それぞれから届けられた心のこもった祝電が次々と披露されていました。二人の胸には事務職員から届けられたという大きな花が飾られていました。

終わりに、たった二人だけで「揚げば尊し」を合唱し、その二人の瞳は涙でいっぱいでした。

二人にとって、この卒業式での感動は生涯忘れえない思い出となり、大きな心の支えとなることと思えます。また、そこへ参加した二十一名



曲木不捨

竜南中学校長

河合 好文

日本建築の切妻造りに使われる棟木は、松材のしかも曲がりくねったものが普通である。大工はその材料をうまく使いこなす。作業はまっすぐなものの方が使いやすいことは言うまでもない。が、強度という観点からすれば決して劣らない。むしろまっすぐなものより優れている。従って大工は、用意された木材を見てそれを活かすよう考える。曲がっているからとか、仕事がやりにくいからという理由でその木材の使用をやめるといったことはない。つまり「曲木不捨」なのである。それが大工の仕事であり、また誇りでもある。

私たち教師はどうであるか。年の子供への対応は複雑さを増している。指導の時間も多くを要する。だが、今こそ日本の大工の伝統的な「曲木不捨」の英知を必要としてい



拘置所看守二十五年

元岡崎拘置支所看守部長

土岐 了平 氏

新緑のみずみずしさが心地よく感じられる五月、春の叙勲で勲七等瑞宝章を受章された土岐さんをお訪ねした。

土岐さんは、昭和二十五年に名古屋刑務所の用度係として採用された。その後、昭和三十五年に岡崎拘置支所の会計係に配属され、収容者の所持金や職員の給与計算を二十五年間こなしてみえた。

具体的な仕事の内容についてお尋ねすると、
「職員の給与だけでなく、収容者の物品販売施設である矯正協会の会

計、その他日用品の購入などいろいろあります。鉛筆一本を購入するにもすべて書類に記載します。一円でも合わなければ、すべてやり直しです。」
と話された。

一般社会との違いについては、「拘置所内では、食べ物も他人に分け与えたりしてはいけません。食べ物だけでなく、自分の持ち物も貸したりできません。トラブルの原因になるからです。また、食べ物との差し入れは、検査ができないため認められません。指定店に申し込めば購入できます。」
と話された。この言葉から、収容者間の人間関係や外部との接触到細心の注意を払っている様子がうかがわれた。

最近の少年犯罪についての思いをお聞きすると、

「子供にとって安心できる場所が少なくなってきたと思います。今は共働きが多いですが、母親が家にいれば、そこが子供にとって一番心がやすらぐ場所ではないかと思えます。母親は、子供によって名前が出るものです。」
と、熱く語られた。改めて母親や家庭の重要さを痛切に感じた。



退職後は、趣味のアコーディオンを携え、手品を披露しながら老人施設を慰問されている。このほか作曲やカラオケ、製図、看板作成など多方面の趣味をもつてみえる土岐さん。温かい人間性が、部屋の雰囲気から伝わってくる思いがした。

「毎日が楽しくて仕方がない。」
厳しい社会に向き合って生活してこられた後の充実した第二の人生を送られている土岐さんの言葉が印象に残った。

氏名 ときりょうへい
生年月日 昭和二年二月二十五日
住所 竜美南三二二一四

るのではないだろうか。時間はかかっても一人一人の個性を尊重し、その子供にとってどうすることが最適なのか考えてやらなければならぬ。多忙を理由に結果的に手間のからぬ方を選んでいくことはないであろうか心したい。

そこで、気がかりになることの一つに電話の使用がある。とりわけ携帯電話の普及は目覚ましく、便利なことには計り知れない。急なときはまことに都合がよい。個人が持っているかぎりどこにいてもつながる。しかし、連絡はこれで足りるかも知れないが電話は意外と一方通行になっていることが多い。教育は相互理解するところから出発する。

また、「病気の原因究明や治療方針を立てるのに患者さんの生活史と現時点での生活環境や考え方を知らることが大変役立つ」と述べられた杉浦壽康先生の「医療における往診の意義」を思い出す。(本誌平成十年四月号掲載)。医者への往診に当たるものが私たちにあっては、家庭訪問ではないだろうか。

私たちは、日本建築における「曲木不捨」の英知と「医療における往診」の意義を考えるととき家庭訪問の大切さを忘れてはならない。

しっとるかん？岡崎



—岡崎市制八拾四周年—

▲大正5年7月1日に龍城神社にて市制宣布

この七月一日で満八十四歳を迎える岡崎市。市制記念日にあたり、岡崎市誕生から、今日に至るまでの岡崎の歴史を今一度振り返ってみたい。

岡崎市が誕生したのは、一九一六年（大正五年）七月一日。当時地方制度の基盤をなすものが町村制であった。これは明治政府以来の近代国家政策の一つである。近代化を進めるためにも、厳しい町村税を緩和するためにも、町村合併は必要なことであった。地域間の諸問題を抱えながらも合併は進み、人口も二万五千人を超え、町民の間に市制施行を熱望する声が高まった。この声に県がこたえる形で岡崎市が産声を上げることになったのである。

七月一日から三日にわたって、市を挙げての様々な祝賀行事で市民は沸き返った。当時の新聞にも「大花火が打ち上げられた」とか「飛行船が飛んだ」などの記述を見ることができる。



▲康生の目抜き通りにあった岡崎郵便局（昭和初期）



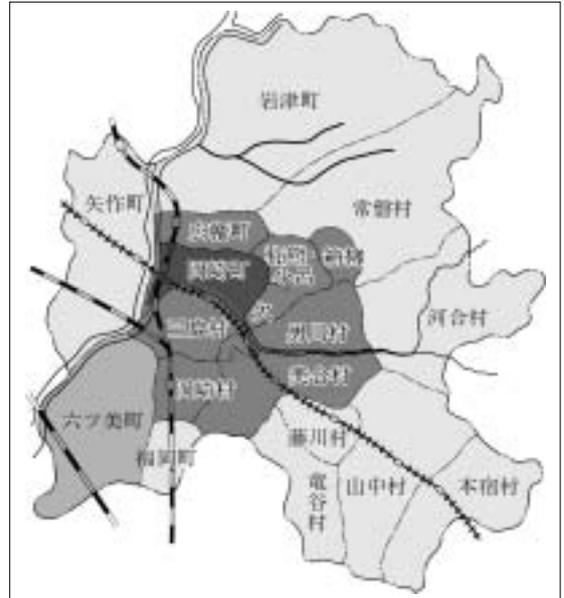
▲復元された岡崎城（昭和34年）

市章

市の紋章の外廓は、竜の爪と宝珠を表し、中に岡の字を図案化したものである。岡崎は赤石山脈の先端でその地形が竜に似て、いずれが尾かさき（頭）か分からないというので「おかざき」と名づけられたとの言い伝えもある。

岡崎市の変遷

年 (合併地区)	面積(km ²)	人口(人)
大正5年 (市制施行)	19,68	37,639
昭和3年 (岡崎村, 美合村, 男川村, 常磐村の一部合併)	50,84	69,641
昭和30年 (岩津町, 福岡町, 本宿村, 山中村, 藤川村, 竜谷村, 河合村, 常磐村, 矢作町合併)	212,85	160,751
昭和37年 (六ツ美町合併)	227,05	185,959
平成10年	226,97	334,674



岡崎市 数字でみた今昔

	大正5年(市制施行)	平成10年
学校数(小中学校)	5	60
児童・生徒数	3,653	34,515
教員数(小中学校)	67	1,705
医師数(歯科医を含む)	50	600
自動車保有台数	2	249,431



▲東岡崎駅のプラットフォーム (昭和30年)



▲路面電車の最終日 (昭和37年)

合併の推移

その後、昭和三年に岡崎村他三村を合併し、人口増加率は三十四パーセントを示すに至った。昭和二十年七月に岡崎市は戦災を受け、一夜で市街地の大半を消失するが、焦土の中から立ち上がり鋭意復興に努め着実な発展を開始した。昭和三十年には大規模な合併が行われ、面積も十倍以上になった。昭和三十七年に六ツ美村を合併し、現在の岡崎市に至るのである。

ある学校の学校日誌に次のような記録があった。「昭和二十二年七月一日―全校生徒、午前中登校。市制記念日の講話を聞く。」「昭和二十三年七月一日―市制記念日により学校休校。」

昭和二十六年七月一日に市民マラソン大会が行われるなど、市制を記念する行事は毎年行われていたが、広く市民意識高揚のため「市制記念日」が制定されたのは昭和三十七年のことである。この年に市章、市旗、市歌もできた。時にはわが市の歴史をひもといてみるのも面白い。



みかわくろまつ

「市の木選定委員会」によって出された候補の中から市民の応募により昭和46年に選定。



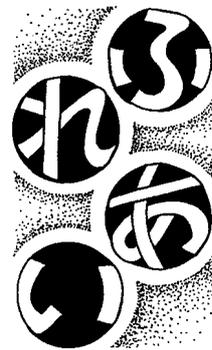
ふじ

岡崎公園のふじは「五万石藤」の名で親しまれている。本市をシンボライズする花として昭和45年に選定。



ハクセキレイ

昭和49年、市民からの公募により市の鳥に選定。姿が美しく、古くから市民に親しまれてきた。



赤ちゃんに触れて

岩津小学校

中野渡妙子

小学三年生の保健の授業で子供たちに命の尊さを感じさせたかった。話だけで分かる子もいればA男のように無反応の子もいる。

人の誕生を実感し小さな命への優しさが現れれば、命を尊ぶ気持ちと言えると考えた。そこで、出産間近な妊婦さん子供たちに出会わせることにした。

A男は粗暴で友人とぶつかり合うことが多い。そんなA男に胎児をいたわる妊婦さんや、たくましく生きるおなかの赤ちゃんに関心を持ってほしかった。多くの子が、動いたり歌に反応するおなかの赤ちゃんに興味を示す中、A男は無関心だった。そこで、A男自身の誕生に目を向けさせ

ようと自分がおなかにいた時の様子をお母さんから聞くようにさせたが一向にその気にならなかった。

数週間後、赤ちゃんが産まれた。子供たちの要望で、数人ずつ家を訪れ、赤ちゃんと対面することに。行くまでは、面倒そうにしていたA男。赤ちゃんを抱き上げると、「やわらかい。」

と第一声。一生懸命にあやしている。今までに見たこともないA男の優しい表情を見て、とてもうれしくなった。

「赤ちゃんともっと一緒にいたかったな。」
と言う、帰り道のA男。満面の笑みであった。



師弟同行

厳しさと温かさ

梅園小学校

夏目 恒男

先生との思い出は私の岩津中学校の時、担任ではありませんでしたが多岐のことを教えていただきました。

覚えていらつしやいますか。あの木造校舎、階段が多く一階なのか二階なのかよく分かりませんでした。運動場も体育館もプールもなく、岩津小や岩津高の運動場や体育館を借りていたことを。でもそんな学校でも部活動は強かった。野球は県大会準優勝、卓球や庭球、剣道、バレーも強く県大会に出場していました。同級生には甲子園へ出した者が四人もいました。先

生方がいつも言っていました。「施設や条件じゃない、やり方



と精神力だ、それが岩中魂だ。」

先生の印象は、「怖い・厳しい・でも温かい」先生でした。数学の授業でできない者には授業後居残りをさせ、徹底的に教え込まれたことを覚えて

います。その厳しさ熱心さのおかげで数学の苦手な私も一生懸命勉強することができ、教職につくことができました。感謝しています。先生から教えられた厳しさと温かさを忘れず頑張りたいと思います。

やる気を育てる

前岡崎小学校長

石川 昌文

夏目君との出会いは、まだ私が新任として勤め出したまもなくの頃でしたね。

君も言っているように、当時の岩津中学校はとてもユニ

ークな学校でした。山の裾野に建てられた校舎は、まさに忍者屋敷のようでした。十分な施設・設備を補う活気が学校全体にあったように思います。君はどうですか。

君は持ち前の明るさ、積極的な態度で、生徒会役員、放送部員としての活躍、矢作川の水質検査などユニークな活動をした科学部での大活躍。

中学校生活を実に有意義に過ごしていましたね。君の姿を見て、今思うことは、教師たるものは、いかに子供にやる気を起こさせる手腕、心を持ち合わせているかではないかと思えます。当時、私の先輩教師にはそうしたとてもユニークな先生が多くみえたように感じましたが。

教員になった今もいろいろな立場で中学生時代と同様、やる気満々で全力投球をしています。さらに、子供一人ひとりが生き生きと活動する方策を若い先生に伝授してください。いつの間にか若者たちをリードする立場になっている君に大いに期待します。



◆環境保全関係功労者知事表彰
功労賞 葵中学校生徒会
◆FBC県春花壇中央審査
優良賞 上地小学校
奨励賞 根石小学校
地域花壇優秀賞 細川小学校
上青野町秋葉花壇
(六ッ美中部小学区)

◆三好カップ国際レディース
カヌー大会
・五百Mカヤックペア
優勝 新香山中 藤嶋 紋
鈴木 理恵

・五百Mカヤックシングル
準優勝 新香山中 山下真衣香
・二百Mカヤックペア
準優勝 新香山中 本村 綾
宮崎 由美

◆松下視聴覚教育財団
視聴覚教育研究助成校決定
・テーマ研究 山中小学校
・一般研究 六ッ美西部小学校
竜南中学校

◆第44回岡崎市中学校総合体育大会の記録

●種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	竜南	東海	矢作
	女	六ッ美	東海	矢作北
バスケットボール	男	城北	竜海	葵
	女	竜海	竜南	岩津
バレーボール	男	矢作北	竜南	竜海
	女	矢作北	北	甲山
ソフトテニス	男	河合	福岡	甲山
	女	矢作	常磐	竜海
卓球	男	六ッ美	東海	矢作
	女	矢作	竜海	六ッ美
体操	男	竜海	甲山	
	女	東海	南	矢作北
新体操	男	甲山	東海	矢作
	女	矢作	甲山	城北
剣道	男	葵	南	美川
	女	六ッ美	南	甲山
ハンドボール	男	葵	竜南	美川
	女	竜南	美川	葵
軟式野球	男	竜南	甲山	葵
	女	矢作北	南	甲山
ソフトボール	男	甲山	六ッ美	北
	女	甲山	竜南	矢作
柔道	男	甲山	六ッ美	北
	女	甲山	竜南	矢作
サッカー	男	竜南	北	新香山
	女			南

●陸上競技(個人・1位のみ)

性	種目	氏名	校名	記録	
男	1年 100m	安藤 誠哉	矢作北	13"1	
		酒井 シェリコ	美川	11"6	
	200m	菅 沼 泰行	東海	24"6	
		青木 佑介	福岡	54"8	
	400m	田島 正人	城北	2'09"6	
		藤田 翔	北	5'02"5	
	1年 1500m	丸尾 祐矢	岩津	4'31"8	
		伊藤 正人	竜海	9'20"1	
	子	110mH	福尾 直也	東海	17"5
			福尾 直也	竜南	1'38"7
低400mR		早川・武田・太田・岡本	東海	51"0	
走幅跳		嶋田 真之介	竜南	6m31	
走高跳		畔柳 宏幸	東海	1m70	
女	1年 100m	太田 紗貴	福岡	14"7	
		藤田 桃子	北	13"5	
	200m	清水 まり子	六ッ美	28"5	
		志賀 瞳	竜南	2'29"3	
	800m	杉浦 恵子	矢作	5'06"5	
		岩切 啓子	矢作	16"5	
	100mH	鈴木・三好・市川・鷹巣	南	52"0	
		室井・大沼・小城・水野	東海	56"0	
	400mR	室井・大沼・小城・水野	東海	56"0	
		塚田 沙織	六ッ美	4m85	
走幅跳	山本 佳奈	福岡	1m45		
	鈴木 美織	東海	10m05		



▲27年余の伝統を持つ葵中の伊賀川清掃活動

●体操競技

(個人・1位のみ)

性	種目	氏名	校名
男子	個人総合	安藤 広樹	竜海
	床運動	安藤 広樹	竜海
	鉄棒	安藤 広樹	竜海
	跳箱	安藤 広樹	竜海
女子	個人総合	鈴木 あゆ美	竜海
	床運動	鈴木 あゆ美	竜海
	平均台	鈴木 あゆ美	竜海
	跳箱	畔柳 未来	南

●柔道

(個人・1位のみ)

性	階級	氏名	校名
男子	軽量級	大須賀 玄	甲山
	軽中量級	太田 敬介	竜南
	中量級	濱田 朗任	矢作
	重量級	安達 裕喜	六ッ美北
女子	軽量級	寺本 弥生	矢作
	軽中量級	森 沙弥香	六ッ美北
	中量級	戸澤 綾	甲山

・カ
ツ
ト
梅
園
小
山
本
健
治



完全給食実施 (昭和29年)

十二月十一日が学校給食記念日である。学校給食の歴史は古く、愛知県では昭和初期からの記録がある。戦前、戦中、戦後の紆余曲折を経て、昭和二十九年六月三日に学校給食法が制定公布された。現在の学校給食は子供の正常な発育に欠かすことの出来ない栄養価がきちんと考えられ、しかも安価でバラエティに富んだ献立で子供たちを楽しませている。常磐小学校では、昭和二十九年六月十四日に健康教育の一環として学校給食が始められた。当時は週三回(月・水・金)の実施であった。一食十五円、月に十二回として約百八十円の給食費であった。写真は、当番の子供たちが三角巾をして素足で給食室から運んでくる様子を写している。



写真提供 常磐小

温度計の目盛りがぐんぐんと上がる。いよいよ夏本番。今年も水泳の季節がやってきた。水遊びをするちびっ子たちの目は輝き、無心にはしゃぐ姿は愛らしい。真夏の日差しを受け、子供たちの顔は日焼けをして、日に日にたくましさを増してゆく。

シ オ ス ア

朝雨に傘いらずとは言うものの、雨具が手離せないこの季節。生徒の登下校を見ていると、カラフルな傘が花盛り。通路が花畑のようだ。その反面、学校に忘れ去られた傘が蕾のまま枯れてゆくようで寂しい。持ち主が現れるまで夏の太陽に待ってもらおう。

市制施行八十四周年。岡崎市誕生秘話を求めて、岡崎市史・岡崎市議会史・市勢要覧など普段あまり手にとらないような文献を繰る。市制を求めた当時の市民の熱き思い・市の歴史・市のシンボルなど、これら子供たちに少しでも話してあげたい。

寸暇を惜しんで仕事に没頭。岡崎拘置支所でさまざまな仕事に關わられた土岐さん。二階にある部屋に通されると、今までに集めた宝物が所狭しと並んでいた。

「囚人に服装を正すときは教官も」の言葉に我が身を確かめる瞬間であった。



- *ぼんくら 宮部みゆき ¥1800
講談社
- *英語屋さん 浦出 善文 ¥660
集英社
- *教師をめざす若者たち 大橋 功 ¥1500
プレジデント社
- *社会的ひきこもり 斎藤 環 ¥690
PHP新書

*小町・中町 浮世をゆく 田辺 聖子 ¥1600
実業之日本社

大阪生まれの筆者は、巧みな関西弁で読者を楽しませてくれる本を多く出している。今回もおせいさん節で、浮世のさまざまなよしなしごとをテンポよく綴っている。

熊八老、与太郎中年、中町(ちゅうまち)という晩酌仲間と小町(筆者)との談論が楽しく展開されており、綴り方が、「徒然草」だったり、「今昔物語」だったり、読み手を一層ひきつけている。70歳を過ぎても、小説家として真の物事を見つめる目の確実さ、ますますの語彙力の豊富さに感心する。